

第3回品川区基本構想等策定委員会

議事概要

日時 平成19年8月31日 14:00～16:00

場所 品川区役所第二庁舎 251～253 会議室

1. 開会

2. 委員長挨拶

委員長

- ・前回の委員会では、特に地域コミュニティ、福祉のあり方、品川らしい産業や商業振興についてご意見を頂いた。
- ・今回は事務局からの資料説明はなく、議題である「品川区のめざす将来像」に関する意見交換に、全ての時間をあてることとしたい。なお、時間も限られているため、項目別に議論を進めていきたい。
- ・次回の委員会では、事務局からパブリックコメントにかける前段階の骨子案を提示し、それについて議論を行うことになる。そのため、本日の意見交換では幅広い分野についてご意見を頂き、骨子案に反映させることとしたい。

3. 「品川区のめざす将来像」についての意見交換

委員長

- ・まずは教育・子育ての分野について意見を頂きたい。

委員

- ・品川区の主催で、教育・子育てに関する講演会が昭和大学にて行われた。そこでは、子どもの保育の充実に向け、まだまだ保育園に従事する保育者のやるべきことは多いという趣旨の内容が発表された。
- ・また、一部の保育園では、一時預かりや支援センターなどに対する高い需要を踏まえ、そのようなサービスに取り組んでいるようだが、まずは、保育を受けている子ども1人1人に対し、もっと基本的な部分でやるべきことがあるということであった。
- ・品川区として、保育に従事する人と話しあいを行い、教育・子育てに関する考え方を区民に示して頂きたい。
- ・親子の間の問題がいろいろと指摘されている。現在、品川区には親向けの相談窓口が設置されているが、保護者がお互いに相談しあえる場や保護者の組織化等、孤立化を防ぐための仕組みが必要ではないか。

委員

- ・前回の委員会では、学区の自由化が地域コミュニティの希薄化につながっているという問題提起がなされた。しかし、教育の自由という観点から、学校の自由選択は好ましいことである。新しい環境のもとで、新しいコミュニティのあり方を前向きに考えていく

必要がある。

- ・品川区で小中一貫教育を導入したことは英断であったと思う。
- ・高校入試が日本の子どもをダメにしているように思う。一般に、子どもは中学時代に生活の価値観や道徳を身につけるが、その時期に受験勉強のため、周囲をライバル視させ競争意識をあおることは、価値観の形成にひずみをもたらす恐れがあると感じている。
- ・戦前は、中学校5年生くらいの年齢になると自分の価値観の基礎が築かれていき、その後、旧制高校で学ぶという体系であった。教育行政は高校と中学校で都区の役割が分かれているため、品川区単独で実施することはできないが、子どもの発達から考えると、中高の連携などができる方が良いのではないかと。

委員

- ・子育てをしている立場から、学校では給食費の未払いなど、モラルのない親が増えていると聞く。「親力」のベースアップを図る必要があり、そのためには、地域コミュニティの強化、行政からの情報提供・普及啓発が重要な役割を果たす。
- ・近年、子どもの間にアイデンティティ・クライシスが起きているように思う。自分自身が将来こうありたいという望み、生きる力が弱くなっているため、子どもたちが地域の大人たちと接する場や機会がもっと増えれば良いと思う。また、学校教育のなかで、道徳の育成を超え、生きる力を育てることを目的とした教育などがあると良い。
- ・ゆとり教育の転換が話題になっているが、子どもも大人もゆとり教育をはき違えているところがあると思う。大人から子どもに、もっと勉強以外に学ぶ場や機会を提供する必要があるのではないかと。
- ・子ども自身が、何が正しいか自ら判断することのできる能力や、情報を適切に解釈するリテラシーを向上させるための教育に力を入れて頂きたい。
- ・品川区は小中一貫校で、英語や市民科など多様な教育科目が増えているが、英語の授業はもっと実践的な内容になるとよいと思う。

委員

- ・子どもの数が減り一人っ子が増えたことで、甘やかされて育てられる子どもが増えているように感じる。また、学歴社会のなかで、勉強ばかりさせられている子どもが増えたことで、頭でっかちの子どもが多くなっているように思う。
- ・もっと家庭における躾が必要なのではないかと。学校や地域の教育は副次的なものであり、まずは、自分が嫌なことは人も嫌なことだということなどを家庭で教える必要がある。
- ・相談する側も要望するだけでなく、自分が何をすべきか考えることが重要である。相談する側も相談を受ける側も、自分に自信がないため、言われるままの行動を取りがちである。まずは自分に自信を持つことが重要である。

委員

- ・商工会議所では、座席譲りを進める会という取り組みを行っている。お年寄りや障害のある方が来ても知らないふりをする人が多いが、最近は、席を譲る人も増えてきている。

また、座席を譲られた方が、自分は年寄りではないと言い返すこともある。座席を譲る活動に併せて、座席を譲ってくれた人の勇気を踏まえ、おとなしく感謝することについても取り組んでいる。

- ・ただし、実際に座席譲りの取り組みのなかでは、電車で座っている子どもが区内在住ではないことが多く、声をかけづらいこともある。区内だけで取り組みを行うだけでは限界もある。
- ・区が小学生に配付している「まもるっち」用のストラップを寄付しているが、そこには商工会議所の取り組みのマークをつけている。小学生にもそのマークは知られつつあり、商工会議所の取り組みが広まりつつあると感じている。
- ・商工会議所で教育に関する議論を行うと、親が悪いという議論になりがちである。小さい子どもを育てる親子を対象に、躰の仕方を教える講座を実施していくと良いのではないか。子どもは親をみて育つことから、まずは親の普段の行動を正すために、親を教育する場が必要であると思う。

委員長

- ・教育・子育てに関する議論が、地域コミュニティにまで発展していったので、議論に広がりができた。
- ・次に、健康福祉・医療介護分野について意見を頂きたい。

委員

- ・教育・子育ての話に戻るが、子どもが増える地域づくりを目指したいと考えている。
- ・子どもを増やすためには、子育てに対する様々な支援が必要であると思う。経済的支援等も含め、これまで品川区では、母親が働きながら子育てをすることができる環境づくりを中心に取り組んできた。今後も、その取り組みを継続して頂きたい。
- ・「子どもを倍増する品川」をスローガンにしていきたいと思う。

委員

- ・小中一貫教育等、品川区の教育は全国から注目を集めている。
- ・子どもたちの「ふるさと意識」を育むための取り組みを行って頂きたい。学校・地域・保護者の連携が指摘されるものの、現状ではなかなか上手くいっていない。
- ・杉並第一小学校では、学校地域コーディネーターという仕組みを設け、朝の10分間、地域先生ということで、地域の人が子どもと触れ合う場をつくっている。

委員

- ・前回の委員会では、コミュニティの崩壊に関する議論が行われたが、その原因は少子化にあると思う。これまで、地域で子どもを育てることが地域のコミュニティを育ててきた。そのため、子育て支援策、公園・広場の整備、町内行事への支援を進めていくことにより、品川に住みたいという人が集まれば福祉にも好影響をもたらすとともに、コミュニティの衰退も防ぐことができるのではないか。「子どもの集まる品川」が様々な分野に関連するキーポイントであると思う。

- ・最近では、マンションに引っ越してきた 30 代の親子世帯が、積極的に地域と交流するようになり、地域コミュニティが新しい形で生まれつつあるのではないかと。

委員

- ・産科病院が区内に少なくなってきたり、区外で子ども産む区民が増えてきているようである。
- ・保育所や学校等、子どもも保護者も常に「選ぶ」ことに迫られている。
- ・品川で育った青年たちが、小さい頃の遊びを今の子どもたちに伝えるイベントを自主的に行っている。また、最近では母親のサークル、NPO 等が増えてきている。
- ・品川区では様々な講座が充実してきているが、講座やイベント等が増えすぎ、また体系だっていないため、区民には分かりにくくなっているように思う。この点が改善されれば、もっと住みやすい品川になるのではないかと。

委員

- ・子育て・教育の分野では、親育てが重要であると思う。
- ・区民アンケートの結果では、救急医療体制の充実に対する要望が多い。これまで医師会ではこの点に力をいれ相当充実したと考えていたが、未だ十分ではないようである。
- ・健康づくりの充実に対する要望も多いようであるが、まずは自分の健康は自分でつくるという意識が重要である。
- ・医療連携の推進に関する要望も多いが、区内では大規模病院との連携は進んできている。
- ・健診の充実に対する要望も多いが、受診率はそれほど高くない。生活環境が豊かになり生活習慣病になる人が多いため、予防医学の観点から、まずは生活習慣のなかの悪因を改善していかなければならない。
- ・来年度から実施される特定健診では、メタボリック症候群等を対象とした健康づくりが行われる。高血圧や糖尿病等の病気を抑制することができれば、健康な社会の構築や医療費の削減につながると思う。
- ・スポーツ施設の充実に関する要望も多いが、実際には施設はそれほど混んでいない。要望は多く挙がっているものの、利用率は低いように感じている。

委員

- ・荏原文化センターで行われたタウンミーティングにて、区長から介護施設に対するチェックを大至急実施するという話があった。その点を適切に進めていただきたい。
- ・介護サービスの水準の向上やサービス内容の管理についても、区として考え方を示して頂きたい。

委員

- ・区民アンケート結果では救急医療に関する要望が多いようだが、それは当該分野に関する選択肢のなかから選んでいるためであり、必ずしも利用者の意見が多いわけではないと思う。
- ・健診率が上がらない理由として、区内に婦人科が少ないこと、乳がんのマンモグラフィ

一の検診を実施する病院が少なく、すぐに予約で埋まってしまうこと等があるのではないか。

委員長

- ・次に、産業に関する意見を頂きたい。

委員

- ・以前、韓国の価格の安い製造品が日本に流入してきたことがあり、日本の技術力を追い抜くのではないかと指摘されたことがあった。しかし、個人的には韓国も中国も日本には勝てないと考えている。韓国も中国も労働者が1つの企業に長く勤めることは少なく、社内で高い技術を身につけたとしても、より高い賃金を支払う企業へと転職してしまうことが多いことから、技術が定着せず高まっていかないことがある。
- ・区内の工場では、中学生や高校生に製造業の現場をみせる取り組みが行われている。ものづくりは日本の産業の原点であるため、そのような取り組みは伝統の伝承につながる。
- ・ポーランドかチェコでは、小学校5年生以降から、実学としての技術教育が行われているという報道をテレビで見たことがある。日本ではみなに同じ教育を受けさせているが、もっと実学の場を設ける必要があるのではないか。今の教育制度では机上の勉学が重視されているため、これだけではものづくりは伝承されていかない。

委員

- ・産業は品川区の活力の源と言い換えても良いと思う。
- ・昔のような工場街としての活性化を図るため、品川区に工場を誘致してくることは難しいと思うが、IC 産業等のソフト分野では、マンションの1室でも起業することができるため、既存の産官学連携の枠組みを活かしながら、ソフト産業の集積基地として発展を目指すことも良いのではないか。
- ・商店街の活性化も重要であり、特に品川区は、23 区のなかでも商店街の活力のある地域であると思う。今後は、一律に商店街を支援するのではなく、選択を迫るような形で支援を行い、発展させていくことも考える必要があるのではないか。

委員

- ・地域において、商店街は目立つ存在である。
- ・区内に 69 の商店街があり、それらは振興組合や協同組合、任意団体などに分かれており、傘下の商店数は約 3,600 にのぼる。このほか、商連に参加していない店舗も多くある。
- ・商店街に活力があるためには、店舗それぞれが元気である必要がある。各店舗の活力の向上のため、品川区の委託を受け、地域に支持される店として、160 店舗のノミネートのなかから主婦や学生のモニターが 40 店舗選出し、マイスター店として認定する取り組みを実施している。今後、これらの商店を商店街の核とし、将来的には、5 年間で 200 店舗を認定していきたいと考えている。
- ・商業は、地域の文化、治安を守りながら、地域のコミュニケーションの土台を築いていくものであるため、商店街に活力がないと防犯上も良くない。また、商店街の商店が失

われることで、人情味あふれるコミュニケーションの機会が失われつつある。

- ・商店街は人々に便利さを提供するところであったが、後継者不足などにより昔ながらの商店は減少している。
- ・文化・観光の分野では、品川区は水辺から山手まで幅広い地域を形成している。また、立会川周辺には、昔ながらの景観も残っており、商店街ではそれらを守る取り組みも行っている。
- ・戸越銀座商店街のように、IT を用いた活性化の取り組みもある。このほか、地域ブランドの構築等に取り組むものもある。例えば、かつて立会川の側にビール工場があったことから、地域ブランドとして、品川縣ビールというものを若手中心で立ち上げている。
- ・商店街では、子どもたちによる環境未来構想を進めており、具体的には環境をテーマに、例えば地域で空き缶を集めてくることを参加条件としたサッカーイベントの開催等を行っている。
- ・教育面では、品川からモンスターペアレント等といわれるような親を生み出してはならないと思う。
- ・明るく、住んでいて良かったと思える品川づくりを商店街では進めている。

委員長

- ・環境分野について意見を頂きたい。

委員

- ・商店街ではレジ袋に関する取り組みを実施している。また、先行事例として、杉並区のレジ袋の有料化の取り組みがある。
- ・区内でもヨーカドーでは、買い物袋を持ってきた場合にポイントを付与する取り組みが行われているが、持ってこない場合にお金を取るなどの厳しい取り組みの方が効果的であると思う。
- ・交通面では、「ゾーン 30」という、まちなかを 30km/h で走行させる取り組みを実施できれば良いと思う。

委員

- ・品川区の改善されるべきイメージとして、みどりが少ないことが挙げられている。
- ・区には、個人住宅の改築の際、庭木を残すあるいは増やすことについて、指導を行って頂きたい。このような取り組みがみどりを保全することにつながる。
- ・ドイツでは、都市におけるみどりの保全の政策として、住宅改築の際、改築前の樹木本数に樹木を 1 本増やす取り組みを実施しているようである。
- ・セットバックの空間の活用など、身近なところからみどりの保全に取り組むことが重要ではないか。公園や川、街路樹などの公共空間における保全は当然のこととして、個人所有のみどりに関する保全も重要であると思う。

委員

- ・東京都では、小中学校の校庭を芝生化し緑化する計画を進めていると聞いている。

- ・学校では、もっと身近な取り組みとして、裏庭やグラウンドの庭の部分で、植物を育てる等、緑化の取り組みを行っている。そこでは、ものを慈しんだり、ものを育てる・大切にすることを育むということも目的としているようである。
- ・緑化運動というのも、まずは足元から・身近なところから進めていくことが重要である。整備されたみどりではなく、小さなみどりをたくさん増やしていけるような環境を整備したい。
- ・学校も植物を育てることには素人であるため、地域の人と連携し、例えば、盆栽好きな区民や、植物を育てることを得意とする方に指導してもらいながら、緑化運動を推進して頂きたい。

委員

- ・品川区で民間の屋上緑化に対する助成をしている。また、区の施設の改築の際には屋上緑化などについて配慮していると思う。今後は、品川区にある区以外の公共施設に対する取り組みを進めて頂きたい。

委員

- ・現在、整備されている公園はきれい過ぎて、子どもたちが遊ぶには躊躇してしまうところもある。子どもたちが何でもできる公園が増えると良い。
- ・東京都に返還されてしまうが、大井ふ頭の野外活動広場のような、自然を身近に感じることができる場所があれば良いと思う。
- ・世田谷区のプレーパークのように、子どもの生きる力を育む公園づくりを、品川区でも行って頂きたい。
- ・商店街では、マイスター店舗の取り組みやPRが行われているが、新しく建設されたマンションの周辺にはそのような商店は少なく、商店街にまで足を伸ばすようなこともない。
- ・他市では、子どものいる家庭に、若干の割引があるようなカードを配布する取り組みが行われている。そのような制度があると商店街に行くことも増えるため、良いのではないか。

委員

- ・戦前、隣組ができる前は、地域コミュニティでも隣人のことはよく分からない状況があった。外部から何か力が働いたとき、地域が結集し連帯意識を持つことができるが、今はそのような外からのインパクトが少ない。今後、環境への取り組みは、地域が結集する要因になっていくのではないか。
- ・本委員会には、男女共同参画社会行動計画推進会議の会長として参加しているため、その点について発言すると、男女共同参画社会のコンセプトは、焼き鳥の串のようなものであり、全ての行政分野に共通するものである。こうした横串は男女共同参画社会だけではないため、このような横断的な観点から検討して頂きたい。

委員長

- ・文化・観光について意見を頂きたい。

委員

- ・外から訪れてみたいと思わせることができないと、人は来ないと思う。そのような感覚を持てるような水辺のあり方を、目黒川等の周辺で検討してみてもどうか。

委員

- ・立会川の花街道や目黒川ではカーナーをする取り組みが行われている。この取り組みは、観光にも子どもの教育にも関連しており、今後も大きくしていきたいと思う。

委員

- ・文化を考えると、生活文化を大切にするという視点が重要である。歴史的な文化も、生活のなかで引き継がれていくことにより歴史性を帯びたものであり、例えば、旧東海道も生活の蓄積が歴史となって残ったものである。生活という視点にたつて、これを大切にしていくことが重要ではないかと思う。
- ・環境もまちづくりと一体で検討する必要がある。
- ・現行の長期計画をみると、品川区を活性化させるために、再開発を中心とした都市軸をベースとした計画が立てられている。同計画に基づく取り組みの結果、産業も増加し、昼間・夜間人口が増え、ある程度目的は達成できた。
- ・今後の課題として荏原地区のあり方が残されている。同地区には再開発手法を持ち込むのではなく、アメニティにあふれた荏原地区等のコンセプトで進めていくべきである。そのためには、身近なみどりを増やしていくことが重要である。
- ・福祉介護の面では、今後爆発的に増大する介護ニーズにどのように対応するか、方向性を明確にすることが重要である。将来、団塊世代が介護を受ける側になったとき、在宅ケアだけでなく、施設ケアの拡充に本腰入れていく必要がでてくる。駅の数くらいの介護施設の設置や地域との連携について検討していくことも重要となる。
- ・ただし、施設設置等を進めると財政的に厳しくなるため、地域力の活用が求められる。今後、新しいコミュニティの再構築が重要となってくる。

委員長

- ・まちづくり・住宅、交通・アメニティについて、意見を頂きたい。

委員

- ・区民アンケート結果では、区政協力委員と一般区民の回答に乖離があるようである。品川区として、町会はどのような役割を果たしているのか、一般区民にも分かるように整理し、参加意欲を高め、地域コミュニティの土壌づくりを進めていく必要があるのではないか。
- ・地域で子どもが不審者に遭遇した事件があり、地域のセキュリティ関係者や学校の先生等が子どものケアを行うとともに、警察がパトロールを行ったということがあった。
- ・警察と区との間の連携を強化し、限られた地域で犯罪が起きた場合、商店街や区放送を利用し、情報を流すことで不測の事態を防ぐような取り組みを行って頂きたい。

委員

- ・文化の面では、絵本の読み聞かせをしてもらいたい時など、どのような人がどのようなことを行うことができるかという情報があれば良いと思う。
- ・大井町駅前に図書館ができれば良いと思う。今は不便なところに図書館が立地している。
- ・大井町周辺では、かつてスーパーが進出したことにより商店街が衰退していったが、現在、そのスーパーも撤退するということが話題になっている。地域住民は、今後の地域に不安を感じており、区としてどのように関与していくのか検討して頂きたい。

委員長

- ・分野別に進めてきたが、振り返ってこれだけは発言しておきたいということがあれば承りたい。
- ・次回の委員会では、たたき台について議論を行うとともに、キャッチフレーズに関する議論を行うこととしたい。

委員

- ・今後の委員会の進め方について、気にかかる点がる。
- ・今後、合併を含め区の区域はどうなるのか、将来人口の目標値をどのように想定するのか、また、協働という点では、区のパートナーとなる区民はどのような層が中心となるのか、さらに、協働は参加条例等、どのような枠組みで進めていくのかなどの論点について、次回提示されるたたき台に、それらの点に関する意見がどのように反映されていくのか教えて頂きたい。

委員長

- ・今後の検討スケジュールについては、資料7をご覧頂きたい。
- ・10月にはパブリックコメントにける新基本構想素案を作成し、その後パブリックコメントで寄せられた意見を踏まえて、来年1月に答申するスケジュールを想定している。
- ・都区制度改革は重要な論点であり、また、今後の区政のあり方、将来人口の想定、昼間人口に対する考え方、区民の参加や意思決定の仕組みについても、次回、議論することとしたい。

委員

- ・商工会議所で防災について議論した際、避難所は小中学校を利用するが、そこに入れるのは区民だけであり、昼間人口にどのように対応するのかという問題が挙がっている。
- ・商工会議所では、税金を払っている企業体を区民とみなすべきかということが議論になっている。この点についても構想のなかで取り扱った方が良いと思う。

委員長

- ・昼間人口が多い地域では、区民とは何かという議論がある。ロンドンのシティやオーストラリアのシドニーでは、昼間人口が議員選挙の選挙権を有している。
- ・日本でも課税と選挙権は切り離せないものであるため、概念的には委員の指摘はもっともである。この点について、本委員会で議論し新しい考え方を提示することは難しいが、

基本構想の中でこうした課題をどのように触れるべきか議論を行っても良いと思う。

委員

- ・ 区の取り組みとして、1日10分は笑わなければならない等、笑顔を重視する条例を作ってみても良いのではないかと。各人が地域で会話を行うためのきっかけとして、笑顔は重要な役割を果たす。また、会話を契機に地域のきずなが深まれば、犯罪の抑止にもつながると思う。

委員

- ・ ケーブルテレビ品川で、中越地震の際に、地震の予知が50秒前にできたと聞いている。予知を行うための設備もそれほど高くないと聞いているので、小学校などに配置し、予知ができた段階で、小学校の門を開けるといった体制の整備ができると良いのではないかと。

委員

- ・ 前回もコミュニティに関する議論がなされたものの抽象度が高かったが、今回はその論点が絞られてきていたように思う。本日の委員会では、例えば、親子関係の相談窓口、病院や婦人科の整備、緑化整備、家庭における躰、環境の場の整備等に関する点が具体的な分野別論点として指摘された。
- ・ 昭和63年の基本構想にも様々な論点を取り上げられていたものの、具体的な場は記載されていなかった。具体論を基本構想に明記するかは別としても、具体的に、どこで事業を実施するかということの頭に浮かべながら、議論していくことは非常に重要である。
- ・ 広報の問題として、品川区の持っている様々なリソース、実施している取り組みを明らかにし、区民が利用することができるようにすることも重要である。
- ・ 一般区民と区政協力委員のアンケート結果の乖離を埋めるための情報提供として、構想のなかで特に何を訴えていくのかということを確認し、スローガンとして打ち出していくことが重要である。本日の議論では、「笑顔」「ふるさと意識」「子ども倍増」等のフレーズはインパクトがある。

副委員長

- ・ 区の介護保険の検討委員会にかかわっている立場から、品川区では、都内でも先進的に様々な福祉事業が行われているように思う。一方、それらのサービスが区民にまだ十分に利用されてはいないようである。そのため、今後、品川区方式を今後しっかりと根付かせていく必要がある。
- ・ 本日議論した8つの分野では、区の関与のあり方は必ずしも共通のものとならないが、どの分野についても、区がどのように関与していくのか、そのあり方を検討していくことは非常に重要である。
- ・ 品川区では、介護サービスについて、13地域に区分されており、小地域内でサービスを楽しむよう整備されている。
- ・ 介護保険の開始とともに、品川区では同サービスについて品川区標準というものを設定

しているが、それが区民に的確に伝わっていない。区民1人1人に対してどのように伝えていくのか考えることが重要である。広報等、様々な形で情報提供がなされているが、それでも区民1人1人には伝わっていない状況がある。

- ・ 区のスポーツ施設の利用率が低いのではないかと指摘もあったが、それは使い方、使われ方に関する情報が、あまり知られていないことに原因があると思う。
- ・ 情報提供に関する論点は、基本構想で触れることではないかもしれないが、区として検討していく必要がある。
- ・ 様々な施策があるものの、その体系性や継続性がないとの指摘もあったが、これはもっともな指摘である。かつて家庭奉仕員と呼ばれていたホームヘルパーが、現在、訪問介護員と制度変更されている。このようにサービスの利用者が振り回されてしまうような状況に対して、区として国に要望する等の姿勢が重要である。

委員長

- ・ 本日は、8つの分野に関する議論をおこなうなかで、新たな論点として、都区制度、将来人口、協働、男女共同参画、防犯・防災についてご指摘頂いた。
- ・ 次回は基本構想の骨子案をもとに議論して頂くこととしたい。
- ・ 品川区は非常に歴史のある町である。かつては関東の物流拠点であり、江戸時代から交通の要衝とされていた。また、東京全体からみれば、品川は住工商業のバランスがとれた町であり周囲からの期待も高い。その思いを基本構想で受け止めていく必要がある。

4．その他

5．今後のスケジュールについて

- ・ 次回の委員会は、9月20日17時から開始することとしたい。

6．閉会

以上